

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

令和6年4月24日

災害・オウム対策調査特別委員会

速報版

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

午前9時57分開会

○石毛かずあき委員長 それでは、皆様おそろいで
すので、災害・オウム対策調査特別委員会を開催
いたします。

————— ◇ —————

○石毛かずあき委員長 まず初めに、記録署名員の
御指名をいたします。
富田委員、へんみ委員、どうぞよろしくお願
いいたします。

————— ◇ —————

○石毛かずあき委員長 次に、災害対策及びオウム
真理教（アレフ）対策に関する調査研究について
を議題といたします。
報告事項に移ります。1から5まで、以上5件
を、危機管理部長より御報告をお願いいたします。

○危機管理部長 おはようございます。
お手元の報告資料をお開きください。2ページ
になります。
アレフ、オウム真理教対策についてございま
す。
1、舎人公園千本桜まつりへの出展ございま
す。
3月23日、24日と出展いたしました。主に
協議会の方の活動紹介やPR活動の方を行いま
した。
2、令和6年総会でございます。
こちらの方、5月13日6時半から予定してお
ります場所、内容については記載のとおりござ
います。
続きまして、3ページでございます。
水害時福祉避難所の追加についてでございます。

令和6年度より3施設追加いたしまして、11
施設といたします。

1、追加する水害時福祉避難所については、佐
野地域学習センター、東和地域学習センター、竹
の塚保健センターの3か所でございます。

2、選定理由についてですが、一つ目に、綾瀬
川より東側に福祉避難所がないことが一つござ
います。

(2) 竹の塚保健センターについては、ストレ
ッチャーが入る大きさのエレベーターがあるとい
うことで、選定させていただきました。

3、今後のスケジュール、4、今後の対応につ
いては記載のとおりでございます。

ページ進みまして、5ページでございます。

令和5年度足立区防災士研修会の実施結果につ
いてです。

1、研修について。日時についてですが、3月
10日午後2時から行いました。

(2) 場所については、庁舎ホールです。

(3) 内容については、こちら3点ございま
す。

2、参加対象者なのですが、こちら、NPO法
人足立区日本防災士の会所属の方と、(2) 区で
費用助成した防災士で行いました。

3、参加者数については、85名でございます。
ページ移りまして、6ページでございます。

研修内容については、講演の方をまず行いま
して、(2) 番、ワークショップを行いました。そ
れで(3) 番、足立防災リーダーのガイダンスと
いうことで進めました。

6番、ワークショップについてです。

こちらの方は、防災士の視点で活発な意見が交
わされまして、大変有意義なワークショップとな
りました。

7、アンケートについてでございます。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

足立防災リーダーについては、興味を持たたと回答した方が47名でございました。

(2) 主な内容については、記載のとおりです。

(8) 研修を終えてと、9、今後については記載のとおりでございます。

続きまして、7ページでございます。

区長と女性防災士等との意見交換会の実施結果についてです。

防災対策に女性の視点を反映させるため、区長と女性防災士、避難所運営本部スタッフによる意見交換を実施しました。こちらの方、開催日時については3月21日でございます。

2、会場については、区役所8階で行いました。

3、参加者については、女性防災士4名です。

4、参加者の主な選定理由については、防災士の資格を有しているということと、(2)番なのですが、避難所運営本部又は町会・自治会で活動している。(3)地域的に偏りがないように選定いたしました。

5、当日の進行については、記載のとおりでございます。

6、参加者から出た意見については、7ページから8ページに記載させていただきました。内容については御参照いただければと思います。

7、今後の方針です。

令和7年度に修正する足立区地域防災計画に、女性の視点を反映させていきたいと思っております。結果の検証を行って、今後の開催についても検討していきたいと考えております。

続きまして、9ページでございます。

旧入谷南小学跡地に係る災害対策拠点施設の整備についてです。

1、近隣住民説明会の開催についてです。

(1) 開催日時が、第1回が、5月31日の金曜日の夜に実施したいと考えております。第2回

が、6月1日の土曜日の午前中に実施したいと考えております。

(2) 開催場所については、入谷中学校と考えております。

(3) 主な説明内容は記載のとおりです。

2、今後のスケジュールについても記載のとおりでございます。

3、今後の方針についてですが、地域や議会の御理解をいただきながら、災害拠点施設の整備に向けて検討を進めていきたいと思っております。

続きまして、10、11については参考で、これまでの経緯や活用方針について掲載させていただきました。

○石毛かずあき委員長 それでは質疑に移ります。

何か質疑はございますか。

○小林ともよ委員 私の方から、まず水害時福祉避難所の追加についてなんですけれども、今、個別避難計画が戻ってきてらっしゃる方というのは、大体返事が来る方というのが1万1,500名程度だと、前回、一般質問のとき、調べたときにそういう数字が出てきたのですけれども、今、この水害時の第二次避難所、合計で473人が避難できるということになってはいますが、今後どのように増やしていくという計画は、持っていますでしょうか。

○災害対策課長 今、お示しいただいた数字で個別避難計画策定した場合には、今のところ、水害時の避難所は足りていると、充足しているという状況でございますので、今後そういった、日々、該当の方とかが増えてくるのであれば、また区内のそういった施設について、福祉避難所として指定できるように検討を進めていくといった状況です。

○小林ともよ委員 今回、追加というか、ここに挙がっている水害時福祉避難所というのは、全部、

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ストレッチャーが使える施設がかなり限られておりますけれども、個別避難計画を立てる際に、ストレッチャーの方を優先して、こういった施設に避難させていくという計画になっているということでしょうか。

- 福祉管理課長 個別避難計画ですが、ストレッチャー優先ということではなく、Aの方、Bの方優先という形で行っておりますので、必ずしもストレッチャーが優先ということではございません。
- 小林ともよ委員 そうすると、ストレッチャーが必要で避難が必要という方が、このストレッチャーが使えると言われていたような施設に、避難できないということもあり得るということでしょうか。
- 福祉管理課長 ちょっと言い方がまずかったのかと思いますが、ストレッチャーの方もいらっしやいますし、車椅子の方もいらっしやいます。それぞれの用途に合わせて対応しておりますので、必ずしもストレッチャーの方がここに行けないということではございません。
- 小林ともよ委員 分かりました。それと、次に移ります。

防災士の研修の件なんですけれども、アンケートも取っていたということで、とてもいい、アンケートの内容も見させていただいて、本当にこちらでも知りたいような項目がたくさんあったのですが、これに関して、まだ集計をするつもりがないというお話を聞いたのですが、せっかくですから今後、時間を取って、是非集計取っていただきたいと、そして、こちらでも共有していただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

- 防災対策担当課長 3月に行いました防災士の説明会におけるアンケート結果につきましては、我々も中身を吟味しまして、集計させていただいて、また今後の説明会につなげていきたいと思

っております。

アンケートの集計結果につきましては、どのような形で見せられるか分かりませんが、こちらで一旦は集計させていただきたいと考えております。(発言する者あり)はい。では、お示しさせていただきます。失礼しました。

- 小林ともよ委員 是非お願いします。

興味を持たれた方というのは、47名いらっしやったということで、足立区側としては、結構多い方が興味を持っていただけたというようなあれでしたけれども、年齢層的には、こういった方の中にはいらっしやったのでしょうか。

- 防災対策担当課長 まだ年齢の集計につきましては、参加された方が、年齢がお幾つなのかというのが、まだ全員分ははっきりしておりません。

ただ、当日の会場の内容を見てみると、高齢者の方が多くいらっしやるとというのが現状でございます。

- 危機管理部長 集計していないので、具体的に何歳の方がというのは、何十代の方がというのは取れていないのですが、肌感覚でいくと、やっぱりどちらかというと、60前後の方が興味を持っているような感覚でした。会場にいたときにはそんな感覚でございました。

- 小林ともよ委員 参加者の中には、若い方はいらっしやったのでしょうか。

- 災害対策課長 中には30代、40代といった、若い方も参加いただいております。

- 小林ともよ委員 そういった若い方が参加していらっしやったのであれば、本当はそういう方が興味を持っていただけるような内容にできるようになっていくといいかなと思うのですが、今のところ、まだ、この興味を持たれた中に、そういった方が入っているかどうかは分からないということですね。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○災害対策課長 そういったところも含めまして、今後アンケートの中身を整理していきたいというふうに考えております。

○小林ともよ委員 是非お願いします。
あと女性防災士等の意見交換についてですけれども、この中で様々な意見交換されていますけれども、今後、女性防災士を増やしていくという足立区の方針もありますけれども、どのように、増やしていくためのアドバイスなんかは、この方々からは聞かれましたか。

○災害対策課長 すみません。時間も限られていたところもありますので、なかなか、今、小林委員御発言があったような、女性防災士を実際増やしていくにはどうしたらいいかというような御意見を伺うところまでは、話は広がっていかなかったというのが現状でございます。

○小林ともよ委員 是非、まだこれから結果の検証を行って、またやっていくことですから、こういったときに機会を捉えて、是非そういったことも聞いていただきたいなと思います。

次に、入谷南小の跡地に関わる災害対策拠点の整備についてですけれども、確認ですけれども、前回の委員会でも申し上げましたけれども、基本的な活用案、10ページの方ですね。これ参考として付けていただいているので、変わっているのか、ちょっとあれなんですけれども、「区の災害対策拠点施設単独での整備を想定」というふうに書いてはいるのですけれども、米印のところね。整備方法にはPFI手法も検討していくというような内容になっているのですが、今でも、そのPFIの方は検討しているという状況でしょうか。

○資産管理課長 今でも、PFIについては検討はしています。

○小林ともよ委員 私、この間も言いましたけれども、やっぱり災害時に重要な拠点となる場所です

から、直営で、いざというときに、区が区民のために柔軟に使える施設しておくべきと思いますが、いかがでしょうか。

○危機管理部長 すみません。今、議論しているものの整理をしたいのですが、PFIは、民間に床を貸して営業させるということではなく、設計をして、建築させて、普通役所であれば、設計で入札して、建築で入札するという形が一般的なのですが、例えば、基本計画からプロポーザルで業者を決めて、設計建築と一貫して民間にやってもらう。金額がどうかとか、スピード感を持ってやるかというのが、PFIの議論になります。

床を民間に貸すというのは、PFIとは違う議論になりますので、そこのところだけ議論が噛み合わないよう、話を整理させていただきました。

○小林ともよ委員 分かりました。では、その建物を建てるということだけ民間に任せるといことですね。中の運営は、全部区がやっていくということになるのでしょうか。すみません。

○石毛かずあき委員長 これは……。

○副区長 今の小林委員の発言のとおり、建物を建てるのは民間にお願いして、それで、それを区が、借りるとか、買うとかということになります。委託するかもしれませんけれども、運営は区が行うという、そういう考え方です。

○小林ともよ委員 そうすると、その建物自体は、こちらが買い取らない限りは、民間の方のものということになるのでしょうか。

○危機管理部長 おっしゃるとおりです。前回の議論でも申し上げましたが、まだPFIで必ずやるというわけではなくて、区が直接建築する方法も、PFIでやる方法も、併せて並行で検討しているということですので、そこは誤解のないように御理解いただければと思います。

○小林ともよ委員 まだ決定していないということ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

なので、私も分かってはいるのですがけれども、できれば区直営でやっていただきたいということを申し上げて、質問を終わります。

○高橋まゆみ委員 私からは、今の入谷南小学校の件なんですけれども、前回の3月22日の委員会では、今のようにPFI、民間の方を活用してみたいな話だったかと思うのです。

今回、住民説明会をするというのは、ある程度大まかなところが決まって、多分、住民説明会という形になるかと思うのですが、まだ★★ま、PFIにするのかどうか、それとも区、どちらで説明をされるつもりなのか。

○副区長 前に御提案申し上げたのは、民間の施設と区の倉庫を一体的にそこに造って、民間の方に御協力いただいて、いざというときには助けてもらう。あるいは民間の施設が、地元のいわゆる還元として、そこにある施設が望ましいのであれば、そういうことで造りたいという提案をさせていただきました。

ですけれども、それですと拠点として、大型のダンプが入ったり、そこの中で動くのにちょっと狭いのではないかということで、改めて区として必要な面積、車が回るのに必要な、建物のない平場のところの面積、そういったものを改めて検証させていただいて、まずは区が、そこに防災備蓄倉庫を造るというようなことで、地元の説明をさせていただきたいということでございます。

○高橋まゆみ委員 そうですか。ありがとうございます。

多分、地元の方に聞けば、民間、何ですか、便利になる方、スーパーを誘致するとか、そういった楽しい方向に話が行くかと思うのですがけれども、足立区は、備蓄を3日にするとおっしゃっていますし、ほかの他県に民間を取りあえず借りるなんていう話もあるぐらい、やっぱり足りなくなると

というのは想定されることですので、できれば本当の、品川だったり、大田区みたいな、完全なこの備蓄倉庫の、規模が大きいものというのが必要になるかと思うのです。人口も多いことですね。なので、そちらを検討した上で、この住民説明会というのを開催されたほうがいいのかと思うのですが、いかがですか。

○災害対策課長 高橋委員御発言のとおり、区として、人口も多いですので、大規模な災害拠点倉庫が必要だということは認識しておりますが、そういったものが、この入谷南で整備できればいいというふうに私どもも考えております。

一方、スーパーとかという御発言もありましたが、地元の方々の御意見伺っても、なかなかスーパーというお言葉は出てきておりませんので、そういったこともあって、今回、ここには拠点性倉庫を整備していきたいという考えでございます。

○高橋まゆみ委員 ありがとうございます。少し安心しました。

あと、もう一つ、防災士の、先ほど増やしていく話が出ましたが、こうやって、せっかく防災士の方を集めていろいろな研修を行ったりとか、そういったものを今後、発信、YouTubeだったり何かそういったことで、こういったことをやっていますよというふうに皆さんに、防災士になった後こうやって、足立区はこういう研修ありますよ、みたいな発信するということは考えてらっしゃらないですか。

○災害対策課長 これまで、そういった入り口の部分で、こういう研修をやりますといったところの発信はしておりますが、その後の、こんなことをやりましたというのは今まで発信してきていないですので、こういった形でお知らせができるかどうかということも含めて、検討させていただければと思います。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○高橋まゆみ委員 先日、防災士の研修の方を受けてきたのですが、すごく今、多いんですね。やっぱり地震が多くなったというのもあるし、首都直下というところも懸念されることから、本当に会場が満杯になるぐらい、研修室がいっぱいになっておりました。

この足立区でも、区からの援助をもらった方というのは、つながってらっしゃいますけれども、自分で取りに行った方というのは、つながっていないとお聞きしたので、もし、そういう研修が、こうやって、やっているのですよということがあれば、見えない防災士がアクセスをしてくるのではないかなと思って、提案をさせていただきました。これは要望で。

以上です。

○銀川ゆい子委員 私は、女性防災士との意見交換会について何点か伺いさせていただきます。

今後の方針のところ、今後の開催については、これから検討していくところなんですけれども、今の段階として、次にいつやるかというところは、まだ全然未定ということなんでしょうか。それとも、やることは決まっているという感じなんでしょうか。

○災害対策課長 まだ現在のところは、全く未定でございまして、同じ方に継続して御意見を伺うのか、また、違う形で、切り口変えて御意見伺うのかということも含めて、今、検討しているところでございます。

○銀川ゆい子委員 また同じ方に聞くのか、違う方にというふうに今御答弁いただいたのですが、今回4名ということで、かなり少ないなというふうに思ったんですね。

その選定理由が、まず防災士の資格を持っている、町会自・治会で活動しているというところになると、やっぱり限られてしまうということにな

ると思うのですが、この4名の女性防災士の方の年代というのは、どんな感じだったのでしょうか。

○災害対策課長 すみません。手元は★★30代とかから、40代か60代ぐらい、幅広く、バランスよくという形でやっております。

○銀川ゆい子委員 4名の中に、30代から60代ぐらいの方までいらっしゃるということなんです。それならよかったです。何か、その年代層を見ると、防災士の方は結構、上の年代の方が多いイメージで、この前の防災士研修会のお写真を見ても、結構、御高齢の方が多いのかなというイメージだったので、すみません。なので、そのあたりで、結構30代、40代あたりの女性の方を選んでいただいたというのはとてもよかったですと思います。

今後、同じ方でやっていかれるのかどうかというところは、また検討していただくと思うのですが、それこそ、いろいろな震災とか災害とかが起きて、その時々によって避難所とか求められていたり、変わっていくことも多くあると思うので、是非、今後も定期的開催をしていただきたいというふうに思うのですが、できれば、より多くの女性の意見を聞いていただくためにも、4名だけではなくて、もうちょっとこの選定の基準を低くして、人数を増やしていてもいいのではないかなと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○災害対策課長 どうしても人数が多くなってしまいますと、御発言いただく機会も、1人当たりの発言機会が減ってしまうといったこともありますので、そのあたりのバランスを取りながらということにはなろうかと思っております。

あと地域防災計画、修正を進めていく上では、当然、女性の視点も必要なんですけれども、それ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

以外の配慮が必要な方であるとか、外国人の方であるとか、いろいろ課題がありますので、女性だけに特化したということではなくても、幅広に意見を取り上げるような形を考えていきたいと思っております。

○危機管理部長 ちょっとだけ補足します。区長との今回の防災士の意見交換会、人数を増やしたり、回数をたくさんやるというのは、なかなかスケジュール的に難しいところがありますので、女性の意見については、今、担当課長が申し上げたとおり、もう少し担当レベルでも聞くようにはいたしたいと思っておりますので、そういったものを地域防災計画の方には反映して、進めていきたいと考えております。

○銀川ゆい子委員 ありがとうございます。

女性といってもいろいろいらっちゃって、御家族がいらっしゃる方もいれば、お子さんをお持ちの方もいれば、独身の女性の方もいらっしゃるのので、多くの女性の声を聞いていただきたいというふうに要望させていただきます。

最後に、令和7年に修正する足立区地域防災計画に女性の視点を反映させるということなんですけれども、修正自体は、もう今から手を付け始めるのか、それとも、今はそれこそ、こういう会を開催するとかして練っておいて、実際に修正を始めるのは、令和7年から取り組み始めるということなのか、そのあたりの計画、スケジュールを教えてくださいいただけます。

○災害対策課長 地域防災計画の修正作業自体は、もう既に着手して、進行しているところでございます。そういった今回の意見交換会ですか、様々なものを、随時加えながら修正を繰り返していくという形になります。

○石毛かずあき委員長 他に質疑はございますか。

○富田けんたろう委員 私からは、防災士について

伺います。

5ページで、今回、研修会の参加者のところを拝見すると、参加対象者のところで、NPO法人足立区日本防災士の会所属の防災士と、区で費用助成した防災士ということで、1と2で一部重複有りとなるのですが、どれぐらい重複されているのですか。

○災害対策課長 私どもの方でも拾い切れていなくて、重複がどの程度あるかというのは、現在把握していない状況でございます。申し訳ありません。

○富田けんたろう委員 ちなみにNPO法人、この足立区日本防災士の会という団体さんは、どんな活動をされているのかというのは、区で把握されているのでしょうか。

○災害対策課長 こちら、区のNPO活動センターにも登録いただいている団体でございますので、区内のいろいろな公園だったり、公園はパークの公園ですね。公園だったりとか、あとイベント会場とかに出向いていただいて、ロープワーク講習だったりとか様々な活動をいただいている状況です。

○富田けんたろう委員 そうですよね。私も今、この団体さんのホームページというか、事業計画書とかも出たので確認をしたのですが、区のイベントにもかなり参画していただいているなというふうな印象を持ちました。

ただ一方で、私としては、区で費用助成をした防災士さんが、一部重複と書いていますけれども、できれば、本当に全ての方がこのNPO法人のこの団体に入っていて、本当です、一緒に区の防災のイベント等を、是非盛り上げていただきたいと思うのですが、そのあたりはいかがでしょう。

○災害対策課長 私どもも以前から、このNPOさんと区との連携というのを、検討を進めていると

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ころでございまして、例えば、NPOさんの方で募集チラシの様なものを作っていたいただければ、それを区の方で助成で取った方に、そうやって御案内をすとか、協力はできると思いますので、そういった形での投げ掛けはしているところですので、引き続き模索をしていきたいと思っております。

○富田けんたろう委員 まずは、今つながっている方のところは是非、今後もしっかり連携を深めていただきたいというところが一つと、次、あと、また、今、高橋委員からもありましたけれども、つながっていない防災士さん含め、これから、今、正にたくさん研修会場にお越しになっているという話ありましたけれども、私も今、防災士に興味が出始めてきて、いろいろ調べていると、日本防災士機構というところがやっているわけですが、そこから認定を受けて、防災士登録をするというスキームだと思います。そこで「実際に防災士になるには」というところを進んでいくと、途中で助成を実施している自治体というページが出てくるんですね。そこを見ると、残念ながら足立区、載っていないんですね、この日本防災士機構の。何かこれというのは、ちなみに東京で載っているのは、目黒区と武蔵村山市さんは、このホームページに助成を実施している自治体で載っているのですが、足立区、載っていないのですけれども、このあたりは把握されているのでしょうか。

○災害対策課長 今、御案内いただいた目黒とか武蔵村山が、こういった形で助成を行っているのか承知していないもので、調べさせていただきたいと思いますが、何でしょうね、町会・自治会を通じての推薦があったりですか、そういった条件もあって載せていないのかもしれませんが、そのあたりは調べさせていただければと思います。

○富田けんたろう委員 これ見ると、一定条件の下に、住民に対して費用の一部又は全額の助成を行っており、ホームページ等の掲載許可を受けた自治体のみ掲載しておりますと、掲載を希望される自治体は、当機構まで御連絡を願いますというふうに書いてあるので、是非また、ここに載せていただけるように御検討をお願いをしたいなというふうに、これ要望させていただきます。

あと、最後にPFIの件なんですけれども、今、検討段階というふうには承知をいたしました。ちなみに検討しているということは、何らか区にとっても、PFIでやればメリットがあるという話かと思うのですが、このあたりについて、改めて区民の皆さんにも分かりやすく御説明をいただきたいなと思うのですが、いかがでしょうか。

○副区長 まずは時間ですね。区が設計を行う時間と民間が建てるまでの時間のスピード感が、はっきり言って違います。ですから、民間に建ててもらった方が早くできる。それと、公共施設として建てる場合と、民間の施設を借りる場合の基準も若干違いますので、コスト的にもメリットがあるということになると思います。それと、一括でお金を出すのか、あるいは20年償還にするのかという、いわゆるコストの平準化ができるということもありますので、主にその三つぐらいかなと思います。

○富田けんたろう委員 主にスピード感と、それからコスト、特に財政的なところというふうに、私も、一般的にPFIと聞いたときには、特に財政的なところ、自治体においては、コストのところは非常に大きいのかなというふうに認識をしていたので、スピード感は当然そうだと思うのですが、そうなったときに、今の話だと、すみません、もう1回確認ですけれども、その箱物ができた暁には、ただ運営は、最終的には区がやるという認識

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

で合っていますか。

○副区長 例えば地方ですと、学校をPFIでやっているところ、結構あるんですね。建物は民間に造ってもらうけれども、学校ですから、運営は全部自治体がやると。その仕組みと同じです。

○富田けんたろう委員 ちなみに、こういう、ある意味、防災拠点ですよね。防災拠点をそういうPFIでやったような事例というのは、ほかの自治体ではあるのでしょうか。

○災害対策課長 今、手元に情報がないのですが、あるかもしれませんので、調べさせていただければと思います。

○富田けんたろう委員 分かりました。また教えていただければと思います。

以上です。

○吉田こうじ委員 今、防災士のお話が出ていたのですが、今回の報告の中で、防災士の方の研修の中に、「足立の防災リーダーの仕組みを、生徒のガイダンスを行った」とあったのですが、そもそも足立防災リーダーというのは、どういう役割で、どういう仕組みなのか、ひとつ教えていただけますか。

○防災対策担当課長 足立防災リーダーの内容につきましては、今、検討しているところですが、今のところ、コミュニティタイムラインをつくっている地区がありますので、こちらのコミュニティタイムラインが、災害時に実行できるような訓練、啓発、そういったものを、まずは中心に行っていただきたいと考えております。

○吉田こうじ委員 去年の11月ぐらいの委員会で、防災タイムラインリーダーという名前で、多分、報告されていたのですが、そちらのことでよろしいわけですね。

○防災対策担当課長 はい。コミュニティタイムラインリーダーが防災リーダーに、今、名前を変え

て、一応仮称というところでやらせていただいています。

○吉田こうじ委員 ホームページ、その他ググってもなかなか出てこない言葉だったので、質問をさせていただきました。

今、防災士のお話が出ていて、私も前々から、いわゆる潜在防災士というのですか、そういう方を是非拾い上げてほしいという話もあったのですが、今、富田委員からも、防災士の助成制度というのが、なかなか、防災士の機構の方のホームページでも載っていなかったし、という話だったので、足立のホームページにもないんですね。多分、町会・自治会、また避難所運営会議本部の方で推薦をさせていただく制度だからだというふうには、私は思っているのですが、ただ、今、残念ながら町会・自治会に加入していただいている方が半分を切っているような状況もある中で、その方、そういう人たちだけの組織の中から推薦をいただくという、なかなか防災士の方を増やすというの、難しい状況になってきているのではないかなというふうにも思うのですが、そのような議論というのは、されているのでしょうか。

○災害対策課長 おっしゃるとおり、やっぱり町会・自治会の組織率だったりですとか、高齢化とかが非常に問題になっているということは、話題にさせていただいております。

防災士の資格取得助成ですけれども、町会に入っていない方で一般の方でも、足立区防災士の資格助成調査やっていないのですかみたいな問合せが、年に何件か来ています。そういった方には、避難所に所属しているのであれば、そちらを経由して推薦もらってくださいという話と、もし御自身の所属する避難所がお分かりでなければ、御案内いたしますみたいな形でやっておりますので、

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

必ずしも、町会を通じて推薦が上がってこなくても、そうやっていきなり来る場合もありますので、それが結果的に、町会・自治会への加入ですとか、避難所への所属につながる場合もありますので、こちらの広報、PRの方は力を入れてやっていきたいというふうに思っています。

- 吉田こうじ委員 そうなんですよ。そこを私もお願いしようと思ったのですけれども、一番肝腎なのは、やっぱり地域の防災のために役に立っていただく方に、助成をしていくということだと思うので、やはりその辺、一般的に、例えば民間の若い方なんかでも今、各地でいろいろな災害が起きているときに、防災士の資格というのに興味を持って、足立区、どうなのだろうと調べたときに、でも町会・自治会も入っていないしなとか、どうなのだろうなというふうに思ってたしやる方に、是非そういうことをきっかけに地域とつながっていただきながら、それを条件にして防災士になっていただくというのは、もう、ぐいぐい押して、広報していただいてもいいのではないかなというふうに思うのですけれども、いかがでしょうか。
- 災害対策課長 やっぱりそういった防災に思いのある方に資格取っていただいて、地域で活躍していただくのが一番だというふうに思っていますので、資格助成の方法等も含めて検討していきたいというふうに思っています。
- 吉田こうじ委員 是非、意識を持っている方が辞めたというふうにならないように、その辺の広報の方はしっかりお願いしたいと思います。

それから、もう一つ、近藤福祉管理課長、今日来ていただいているので、水害時の福祉避難所の件なんですけれども、今回3か所増やしていただくということで、合計で1,000人を超える方が収容可能であるということなのですから、要支援者の方が、一番避難していただかないと危

険だということ、そういうランクになっていると思うのですけれども、避難していただかなくても、自宅にいていただければ、まず水害の難は逃れることができます。

だけれども、その後のことを心配だよなということに関しては、こちらの方から、いかがですか、大丈夫ですかというお声掛けができるようなことにはなっているのかどうか。そういうふうに、例えば介護施設だとかそういう方々と、区の方から、こういうときはこういうふうに声掛けしてくださいというお願いが行っているのかどうか、お聞きしたいのですけれども。

- 福祉管理課長 こちらの個別避難計画を作成している中で、CDEとか、今でいうと、大体1万人ぐらいの方がいらっしゃいます。このタイムラインというか、96時間前に、一斉に介護施設なり、障がいの施設にメールを送りまして、その段階から、例えばケアマネとか障がいの施設の職員の方に連絡をさせていただいております。その中で、個々にまた皆様方のところにお声掛けをさせていただいているので、途中になると、できているかどうかというのは分からない部分あるのですが、一応そのような形で、お声掛けはさせていただいております。
- 吉田こうじ委員 やはり障がいをお持ちの方が一番恐怖を感じるのは、こういう災害時だと思いますので、是非その辺は、漏れなく、またCDEの方で、心配ないという方の中にも避難させてくださいと、助けてくださいという声も出てくる可能性もあるし、その辺はしなやかに対応していただいて、臨機応変な対応というのが、私は必要になってくるのではないかなと思いますので、そちらの方も、ひとつ御考慮いただきながらの支援策にいただければなというふうにも思います。これは要望で結構です。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

以上です。

- 岡安たかし委員 私も何点か。まず、5ページの防災士研修会なんですけれども、85名参加者いたということで、こういうのを、機会を持ってやっていくのは大事なのですが、人数がどうかというの、先ほども議論の中で出ていましたけれども、そもそも案内に関しては、参加対象者(1)、(2)、重複あるにしても、約400人近い方が対象だと思うのですが、皆さんに案内は行ったということでよろしいのでしょうか。
- 災害対策課長 区で費用助成した防災士の方については、私ども区の方から直接御案内をしております、NPOに所属している防災士さんにつきましては、会の方を通じて周知をお願いしたという状況でございます。
- 岡安たかし委員 必ずしも全員に行っているかどうかというのは、分からないところあるわけですね。そんなのやっていたのという場合もあるのかもしれないし、また、案内が行っても、当然、85名ですから、何らかの用事があって来られない方、そもそも行きたくない方、いろいろあってこの人数なんでしょうけれども、(1)の足立区日本防災士の会に所属していない防災士も結構いると聞いたんですね。もちろん区で費用助成していない人も含めて、人数は分からないですよ、把握できていないわけですよ。
- 災害対策課長 足立区内にいらっしゃる防災士の方が、1,000名程度というふうに聞いております。
- 岡安たかし委員 ざっくりそれを引いた数がということなのですかね、では。400だとすると、600人ぐらいが、防災士だけでも、こういうのをやっているけれども、ひょっとしたら、案内したら行きたかったという人もいるかもしれない。ただ、把握できていないということによろし

いのですか。

- 災害対策課長 区の費用助成ですとかNPOに所属していない方につきましては、私どもでは把握ができていないという状況、御発言のとおりです。
- 岡安たかし委員 だから、参加対象者よりも多い人数の方が、防災士、実際にはいるということを考えて、非常にもったいないなという気もしないではないのですが、足立区、あまり大きい会社はないですけれども、企業で防災士、そういう災害対策を担う部署があって、積極的にそこに所属する社員に防災士を取っていただいて、その会社の中での防災士としての役割を担っている方なんかもいるかと思います。

そういう方はあまり、足立区の方にと言われても、もう自分の会社の方だけで精いっぱいというところもあるかもしれないのですが、発災時は、もう行政も会社も一緒くたになってやることが大事だと思うので、今後の課題なのかなと思います。

次にも関わるのですけれども、この女性防災士の方と。今回4名ということで、女性防災士来ていただいて、もう大事な視点です。こういう、様々な防災対策について意見をいただくというのは、そもそも、ただ、先ほども人数の話出しましたが、少ないのではないかとかですね。ここはもう最初から4人に絞っていたのですか。それとも、ある程度声掛けて、最終的に4人だったのか。

- 災害対策課長 実は、今回お声掛けしたのは5名いらっしゃったのですが、お1人、御都合がどうしても付かないということで、4名で実施をさせていただいたといったところです。
- 岡安たかし委員 5ページの方の参加した人が20人。ただ今回は、★★は、女性の方は3つの選定理由があったので、特に(2)の自治会で避難

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

所運営本部で活動しているというところでは、はじかれちゃうというのもあるのでしょうかけれども、もうちょっと広くお声掛けして、ここに条件にかなっている人がいれば、6人、8人でもということも考えられたのかなとは思いますが、先ほど、この4人でフィックスして、ずっとやっていくのかどうかみたいなのありましたけど、ある程度もうちょっと増やした中で、それだけ、たくさんいればいるほど、まとまらなくはなりますけどね。ただ、8人ぐらいであれば、倍のいろいろな意見が聞けるわけですから、地域性もある程度ばらければ。その辺、今後どうお考えでしょうか。

○副区長 今回、初めての試みで時間も限られていましたので、まず4人選ばせていただきました。ただ、その4名の方でさえ、地域によって全くやり方が違ったり考え方が違うんですね。ですから、やっぱりもっといろいろな人に聞く必要は、岡安委員おっしゃるとおりだと思いますので、区長が直接聞けるかどうかというのは置いておいても、やはりそういった女性の方をお呼びして、あるいは出掛けて行って、多くの意見を聞いて、そして、まとめていく。こういうことをやっていきたいと思えます。

○岡安たかし委員 7ページの一番上のところに、「避難所運営や避難生活、様々な防災対策に女性の視点を反映させるため」これも非常に大事な視点だなと思っているんですね。先ほど、災害対策課長から、外国人の方や障がい者の方なんかの意見もというのでもございました。

例えば若者ですとか、おっしゃるとおり外国人の方、障がい者の方、例えばLGBTの方、子育て世帯とか、縦割りみたいになっちゃいますけれども、あくまでも意見を聞いた上で、防災対策に視点を反映させるという意味では、そういう縦割

りでいろいろ皆さんに意見を聞きながら、より地域防災計画をブラッシュアップさせていく、また、具体的な災害対策に反映させていくというのは、大事だと思うのですが、今後そういう様々な、障がい者も、例えば所消団連の方だけではなくて、視力も聴力もあるわけですし、地域性によっても、障がい者の方も、団体の役員の方でも把握できていないものもあると思います。

もっと広く、そういう様々な、縦のそういう分けの中で、若者★★ということでの、こういう意見を聞く仕組みというのは大事だと思うのですが、今後そういうのをやっていくという方向性は考えていないですか。

○災害対策課長 防災の計画につきましては、当然、足立区全ての方々に関わってくる問題でございますので、そこに、今、岡安委員がいろいろ列挙していただきましたが、様々な課題を持ちの方がいらっしゃると思います。

そういった方々の、どこまで丁寧に御意見のみ取っていただけるかというのは、これは課題かと思いますが、できるだけそういったことができるように工夫をして、対応してまいりたいというふうに思っています。

○岡安たかし委員 数年前、★★足立区が脚光を浴びて、LGBTの団体の方もかなり区にも来られたりした時期がありました。そういう意見交換の中で、もちろん主体は、LGBTの法的な整備とか、そういう話でしたけれども、中には、雑談の中で災害対策の話になったときに、やっぱり、こちらがない視点のお困り事ってあるんですよね、あの方たちはあの方たちで。そういったところも、なかなか地域防災計画には反映していないところというのは、我々の盲点だなと思うところあるので、あるいは、LGBTの方なんかからも意見を聞くのは大事だと思うので、これは要望ですけれ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それと、3ページの方ですね。水害時の福祉避難所なんですけれども、この要支援者のために、こういう福祉避難所を多く設けていくというのは、我が党としても、福祉施設のみならず様々な場所を、福祉避難所をもっと増やしてほしいというのを要望してきた中で、ありがたいし、喜ばしいことなんですけれども、なかなか過去の震災のところを見ると、福祉避難所を、もうどうしようもなく、急に設けたなんていうところもある。熊本なんかは、いきなりもう小中学校の体育館を指定してしまって、福祉避難所とやってしまったときもあったんですね。それで大分、そういう、そこに避難した福祉的な配慮が必要な人たちが助かったというのはあるのですけれども、やっぱりそこにどういふ人がいるのか。ここでずと保健師さんとなつていますが、精神ですと、それなりの精神障がいの方に対応できる人とか、様々なそういう要支援者、介護の必要な人だったら、やっぱりヘルパーさんみたいな、そういう人も必要ですし、そういう人的な支援がどこまであるかによって、幾ら場所を設けてもなかなか機能しないし、避難した人たちが満足できない。むしろ、あそこに避難してこんなになつてしまったみたいな苦情が出たりする。これ、今、保健師さんを考えられていますけれども、保健師さん以外というのはどうなんでしょう。検討する余地はないのかどうか、この辺教えてください。

- 災害対策課長 場所の用意はもちろんですけれども、そこでどういった必要なケアができるかというところが、やっぱり重要だと思ひています。

今現在の計画の中では、保健師の配置だけしかございませんので、それ以外は、その場にいる職員であつたりですとか、そういった者がカバーするようになろうかと思ひますが、どういった形で

やるのがいいのかというところは、質の向上ですとかということに向けては、検討していきたいというふうに思ひます。

- 岡安たかし委員 やっぱり過去の震災で、そういう、実際に福祉避難所を設けたところの状況がどうだったかというのを、調べたり聞いたりするのは大事だと思ひます。

特に大きな法人なんかは、見に行つていてるんですね。例えば、あだちの里とか、あいのわとか、ああいうところは、3.11の後も行かれてますし、熊本も行つたりして、福祉避難所がどういふ状況だったかなとか調べて、こういう課題があったとかどうか、それを区に言つているかどうか分からないのですけれども、法人の中では様々、だから、こうしなくてはいけないねとか検討していますので、しっかり意見交換していただきながら、行政としての役割として、何が必要なかを十分酌み取つていただいてやるのが大事なと思ひています。

ここに、4ページの方に担当部と書いてあつて、それぞれ福祉部とか、学校運営部とか書いてあるのですけれども、これは下の保健師みたいに人数も書いていないのですが、例えば地域のちから推進部、総合スポーツセンター、ここに何人かもう行くというのを、しかも人として、もし、この令和6年度にそういう水害の、大きな、こういうところを開設しなくてはいけないものが起つたら、誰と誰が行くのだみたいに決めてあるのかどうか、そこも教えてください。

- 災害対策課長 水害時の派遣職員につきましては、一時避難所もそうですけれども、各部に割当てをさせていただきまして、その部の中で、人の名前まで指定してございますので、発災時には、その者たちがすぐ動けるような体制を取つてございます。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○危機管理部長 補足です。今、移動を終えて、各部からこの避難所という割当てが出てきて、今ちょうど取りまとめているところです。出水期に入る前の5月に、各避難所の担当者向けに、こういうふうにやってというガイダンスを、5月に我々の方でやりますので、6月から、体制としては取れるように準備しているところでございます。

○岡安たかし委員 本当にありがたいことなので、しっかりよろしくお願ひしたいと思ひます。

もし、こういう資料がまた、この委員会に出るときには、是非人数も書いておいてもらえるともっと分かりやすいかな。地域のちから推進部、総スポ3人とかですね。お願ひしたいと思ひます。

それと、この受入れ想定人数のところですね、1、2、3、4、5行目のところでしょうか。例えば総合スポーツセンターだと、要配慮者150人、計334人。残りの184人は、一般の避難者を想定しているということでしょうか。これ、どういふ見方をすればいいのですか。

○災害対策課長 受入れできる人数が計の人数なのですが、その中で、今、割当てられているのが、記載の要配慮者の人数という形になってございます。

ちなみに、1、2、3、4個下の派遣職員数の記載がござひます。ここが、各部で派遣をすることになっている人数でござひます。

○岡安たかし委員 ここから保健師を引いたのが職員ということですね。50人で……各班10人、20人が保健師さん、40人が職員ということですか。よく分からないですね。いいや。あまりそこを議論してもしょうがない。

そうしますと、受入れ想定人数の計のところ、あくまでも、ここが福祉的な要配慮者、要支援者、要介護の人も、福祉施設って大体、要介護の人と障がいをお持ちの方だと思ひますけれども、そ

の方たちのみの人数で、ここ記載しているということによろしいのですね、334人というのは。

○災害対策課長 基本的に受入れの能力といひますか、そのキャパシティーということに記載している人数でござひます。

○岡安たかし委員 この334人受け入れた場合に、職員派遣数は、これで最大でいけるといふことで、保健師さんもといふことで記載しているのですね。

○災害対策課長 御発言のとおりです。

○岡安たかし委員 だから、人数が少なければ当然、この職員派遣数とか保健師さんも少なくなるし、今こっちに集まっているところに行ったりするということもあるのかなとは思ひますが、ここですと、先ほども吉田委員言ひましたけれども、1,000人を超えてしまっているんですよ。すごい人数がここだけで受け入れられるといふことで、あとは、しっかりと、要支援者のAとかBぐらいの人は、支援するといふ立場の人からしっかりと伝えられるのでしょうけれども、なかなかそれ以外、また今回、様々な理由で要支援者のリストから外れてしまっているような人でも、福祉避難所が必要な人もいるかと思ひます。そういう方に周知していくといふのは大事だと思ひますが、やっぱり、まず学校、自分の付近の一時避難所の方に行ってしまうと思ひますね。変な話、そういうところにある程度の人数が集まってしまうと、そちらの避難所としても対応できなくなっていくてしまひますよね。この人は酸素が必要だとか、この人は特別な部屋が必要だとかいふと、もう対応できないとなってしまうので、しっかりと、この11施設を周知していくことが大事だと思ひますが、今後どうやってこれを必要な人に周知していくのか、そこも教えてください。

○危機管理部長 まず前提としては、基本、割当てられた人が来てもらうといふところで我々考へて

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

おります。想定していない方に対しての配慮については、これについては福祉部と相談しないとなりませんので、そこは中で、まず検討させていただければと思います。

- 岡安たかし委員 先ほど言った過去の震災では、福祉法人の施設に、本来、利用している人しか本当は来てほしくないのかもしれませんが、やっぱりいろいろな人が来てしまって、パンク状態になったという例もあるわけですね。新潟だの、熊本だの。やっぱりそういうところでは、ここに、口づてに伝わると、アシストなんかは特にそうですけれども、あそこに避難すれば大丈夫らしいよって。あなた、足悪いんでしょうみたいな。あんな小学校行くよりこっちの方が近いじゃないとかって、行ってしまいう可能性もあるんです。

行ってはいけないとは言えないのですけれども、やっぱりそこは上手に周知しないと、思わぬ人数が来たり、逆に想定していた人が来なかったり、一時避難所の方に行ってしまったということがあると思うので、この辺の周知はこれからしっかり工夫して、お願いしたいと思うのですけれども、どういう方法があるのかというのは、先ほど申しました、それぞれの足立区内の福祉法人さんとも、連携取ってやっていく必要があると思うのですけれども、この辺いかがでしょうか。あと地域包括ですね。

- 危機管理部長 今、岡安委員の御提案についても、中で検討させていただければと思います。
- 石毛かずあき委員長 他に質疑はございますか。
- へんみ圭二委員 防災士研修会の実施結果についての報告なのですが、これは3月10日に開催をされて、前回のこの委員会が3月22日ぐらいでしたかね。そのときに、この防災研修会のことについて、例えば年齢層がどうなっているのかとか、平均年齢はどうだったのですかということ

をお聞きしました。そのときに、3月の27日の委員会では報告ができなかったので、4月の委員会で詳しく報告をしますというお話があったのですが、アンケートの結果を集計していないというのは、どういった理由なのでしょう。

- 危機管理部長 すみません、それについては、アンケートは頂いていますが、分かるように一覧表にしたり、一つずつエクセルで打ち込んだりとか、そういった整理的なものは、すみません、していないということです。

ただ、我々報告するという意味で、主な意見というところで、主立った、目立った意見の方は、抜粋で今回報告させていただきました。

- へんみ圭二委員 それは分かるのですが、見れば。1か月以上たっても、その集計をしていないというのはなぜなのでしょう。

- 危機管理部長 すみません。それは我々の方のちゃんと進行管理ができていなかったところだとは思いますが、そこについては我々の作業の、通常の仕事、ほかを優先してできなかったというのが正直なところでございます。

- へんみ圭二委員 お忙しいとは思いますが、ただ1か月前の委員会ときに報告をしますと仰っていたわけですから、今回はこの委員会が最後になりますし、しっかりと報告をいただいた上で、中身のある議論ができるのかなと思っていましたから、大変残念に思います。

防災リーダーについては、例えば報酬も検討しますということになっていたのですが、その点については今、どのようになっているのでしょうか。

- 防災対策担当課長 今のところ報酬につきましては、いまだ検討中でございますが、防災リーダーという性格を考えると、消防団に性格が合うなど思っているところもありますので、その横並びになるような報酬を考えていけたらなと、今は考え

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ております。

○へんみ圭二委員 それも11月のときから報酬を検討しているという中で、新年度になって、説明会がもうすぐある中で、まだ決まっていないというのは、やはり皆さんお忙しいのかもしれないですが、しっかりそこは方針を示していただかないと、議会としてもいろいろ意見が言えないのかなと思います。

今、消防団と同額という、私も消防団に入っていますから、大体月額でいうと3,000円、4,000円ぐらいでしたかね。それぐらいのイメージということよろしいのですか。

○副区長 すみません。報告が遅くなって申し訳ありません。

来週、防災リーダーに興味のある方に集まっていただいて、自分たちが、何が必要で、どういうことが地域にとって必要かという意見を、まずお聞きしたいなと思っているんですね。それによって、その内容によって報酬も決めていきたいなど。

今はコミュニティタイムラインのことを、私も中心にやっていますけど、防災士さんは、そうではなくて、もっとこういうことを地域で必要だという意見が出る可能性が高いと思いますので、その内容に合わせて報酬は決めていきたいと思っています。

○へんみ圭二委員 実際にその方々の意見を聞くというのも分かるのですが、ただ、これは予算を取っているわけですよね。どういう予算の取り方をしているのかなというのも、こちら側からは見えないのですが、どのようになっているのでしょうか。

○危機管理部長 すみません。もう1回、話を最初から整理させていただくと、報酬については出す方向で考えています。具体的な金額については、例えば普及啓発でやるときと災害のときに出勤する

もので、少し色分けはしないといけないかというふうには考えています。そこで、それぞれの金額が今、まだ決め切れていないというのが正直なところです。ですから、活動の内容に合わせて少し金額は分けないといけないかという議論まではしております。

予算については、具体的な活動については、今年度認定してからと思っているのですが、必要にまだ制度として立ち上がっていないので、正式に金額が決まって、活動人数が決まった時点で、予算化を、流用で今の部内の予算でやるのか、若しくは、必要であれば補正予算を上げるのか、そのときに予算の対応は考えていきたいというふうに思っております。

すみません。副区長が今申し上げた講習会、ガイダンスですよね。希望している方、来週と言いましたが、今、6月入ってからで会場の方を調整していますので、もう少し報酬を含めて、活動内容の方を含めて、検討しているところでございます。

○へんみ圭二委員 分かりました。その講習会が、たしか以前は、5月ということで案内を受けていたのですが、それは6月以降というのは、どんどん、申し訳ないのですけれども、こちらからすると、いろいろ決めていないから遅れていつまわっているのかなというふうにも見えるのですが、その点についてはいかがなんでしょうか。

○危機管理部長 初めて立ち上げる制度で、正直言って、我々も四苦八苦して、金額、内容の方を検討しているところです。

今、例えばタイムラインを動かしている中川の★★会長だとか、あと千住第5地区の会長とかに取材を受けたり、アドバイスで防災士が入るのだったら、こういうふうに取り組むほうがいいよとか、いろいろな意見をもらいながら、内容の方を

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

今、我々も悩んでいるところです。

そういったことで、正直言って決められない中で、5月にはできないという判断で、6月に1か月繰り越したというのが正直なところでございます。

○へんみ圭二委員 初めてのことで悩んでいらっしゃるというのもよく分かるのですが、やはりここはしっかりと、もう11月の段階からいろいろと決められているわけですから、もう少しスピード感を持ってやっていただけるといいのかなというふうに感じざるを得ないというところがあります。

あとは、防災士費用助成のPRについて、先ほど吉田委員からお話がありました。私も全くそのとおりだと思いますし、11月のこの委員会でも、例えば、ホームページにそうした防災士の費用助成などを書いたりとか、もっとPRすべきではないですかというお話もしたのですが、そのときに、やはり幅広くPRできていないというふうに感じているということで、これからPRの方法についてしっかり検討していきますというお話があったんです。

ただ、そこからもう半年近くたっていても同じ話が出てくるというのは、それはどのような検討をしていただいて、そして、どういった対策を取っていただいているのかというところが見えないのですが、いかがですか。

○副区長 実は地元で意見をお聞きする中で、いきなり、よその防災士がここに来て困るよという意見が出されています。そういった意味で、やっぱり地域からの推薦があって、その方を補助していくということを考えているのですが、さっき、吉田委員からもありましたけれども、紹介に入っていない人も地元とつながるような仕組みを考えて、それで補助していく。そういうことも必要だと思っておりますので、そこで地元の意見をお聞きして

いるところで、少し遅れております。

○へんみ圭二委員 やっぱり地元とつながっている方の方がというのは、そうだと思うのですが、そういったことも書いておかないと、例えば私のところにも来るんですね。どうやったら防災士の助成が受けられるのか、どこにも書いていないから分からない。ですから、町会を通じて申込みになりますということでもいいですし、そのあたりについては、しっかりと書いていかないと、やっぱりよく分からないなということになると思いますから、そこも早急に是非検討して、対応いただきたいと思えます。

次に、女性防災士との意見交換会の結果についてなのですが、ここで今後の方針で、女性の視点を反映させるとあります。

非常に重要なことであるなどは思うのですが、ただ、この参加者から出た主な意見を見ていると、女性ならではの視点というのがあまり見えてこないなというところが感じるのですが、そこは区としてはどのようにお考えですか。

○災害対策課長 今回、意見交換させていただいて、確かにへんみ委員おっしゃるように、女性ならではの御意見というよりは、もうちょっと幅広く避難所はこうあったほうがいいべきだというようなお話がありましたので、そういったところも含めて、今後、また違う切り口でそういった女性の意見を取り入れて、地域防災計画に反映できるような、そんな取組できればと思っています。

○へんみ圭二委員 恐らくこれは、ファシリテーターの方を入れて、女性ならではの視点を主に意見を出していただく場にしていかないと、総論的な話になってしまうと、女性防災士と意見交換をした意味がなくなってしまうから、そこについては、在り方、開催の方法についてよくよく考えていくべきではないかなと思います。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

この女性ならではの視点を入れていくというのは、非常に大切だと思いますが、例えば今、執行機関の皆さん、全員男性ですし、女性ならではの視点を入れていくということでは、例えば危機管理部にも女性を増やしていくということが必要なのかなと思うのですが、危機管理部で女性の比率というのは、どれぐらいなのか。

- 危機管理部長 常勤職員だけで申し上げますと、定数的には41か42います。その中で女性は、2名でございます。
- へんみ圭二委員 半分とは言いませんけれども、やっぱり3分の1から4分の1ぐらいは女性が入ってくることで、いろいろな計画を立てる上でも、女性の視点というのは入れていけるのではないかなと思います、そのあたりについてはいかがですか。
- 危機管理部長 それについては、私も全く同感です。私も女性の割合は増やしたほうが良いと思います。それは人事のヒアリングのときにも、そういう話はしているところなのですが、なかなか内示を見ると、そうではない配置で、今、進めているところがございます。
- へんみ圭二委員 そこはそうならない理由というのは、副区長、何かあるのですかね。
- 副局長 やはり夜中の勤務ですとか、土日の勤務が非常に多くて、女性がなかなか希望しないというところがあります。そういった意味で、今はどうしても人数が少なくなっている状況です。
ただ、それがいいかと言われると、決してそうではありませんけれども、なかなか実態としては増えていかないというところでは。
- へんみ圭二委員 やっぱりそこら辺も働き方改革をしっかりとやっていただいて、危機管理部であっても女性がしっかり活躍できる環境というのを、区全体で整えていくべきではないかなと思います

ので、その点についても、今回は人事異動があったばかりですから、来年度以降に向けて取り組んでいただきたいと思います。

今回、この意見の中で、ペットの避難についても幾つか出されていますけれども、例えば、これは区内で、NPOでそうしたペット関連のNPOの団体というのがありますから、そういったところとの意見交換会ですとか、区長とやるかどうかは別にして、そういう必要性も感じるのですが、いかがでしょうか。

- 危機管理部長 他の会派の議員の紹介で、ペットのNPO団体とも1回意見交換しました。いろいろペットに対する思いだとか、考えというのは、受けたところでございます。また機会があれば、そういう意見も含めて、ガイドラインとかの方は作成していきたいというふうに考えております。
- へんみ圭二委員 分かりました。
あとは、中型犬、大型犬を避難する場合に、ケージを持っていくのは不可能ではないですかというお話もして、そこについては獣医師会と相談するというお話でしたが、そのあたりは、進捗状況いかがですか。
- 危機管理部長 それについては、まだこれからになります。これからのガイドライン作成、まだ委託契約もしていませんので、これからになります。
ただ、今、環境省の方とかでも、避難所に連れてくるペットについては、基本、小型犬で、獣医師会の方とも正式に意見のやり取りはしていませんが、どちらかという大型の動物については、少しお話を深く聞かないといけないかなというふうに感じております。
- へんみ圭二委員 熊本地震などでも、車中泊が多かった理由というのは、ペットと一緒に連れていけない。その理由から車中泊をして、そして、災害関連死につながってしまったということも多い

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

という話も報道でありましたから、そのあたりについては、やはりペットといっても家族ですから、一緒に避難できる環境というのをしっかりつくっていくべきだと思いますし、例えば、同行避難ではなくて同室避難のお話も、以前させていただきました。その同室避難というのは、足立区ではなかなか難しいというふうに、副区長からもお答えがあったのですが、23区の中でも、例えば港区では、そうした同室避難というのも体制を整えて進めているということもありますし、今回の報告があった、例えばこの災害対策拠点施設などのようなところで、同室避難ができる体制を整えるとか、そのあたり、もう少し進められないのかなと思うのですが、どうでしょうか。

○副区長 人口規模からいって、私、前回、なかなか難しいかなという話はさせていただきました。実際、能登に行ったときも、避難する方が、やはりペットは無理だということで、ペットだけ車に乗って、自分は避難所で避難しているという形態もありましたので、同室というのはかなり難しいのですが、例えば、校庭にそういったペット用の何かを造るとか、車を置くとか、そういうことはできるかなと。そういうところから考えていきたいと思います。

○杉本ゆう委員 今日、女性防災士もそうですし、防災リーダーもそうなのですが、そもそも論の話になってしまうので、若干、もしずれていたら、委員長の方に言っていただければと思うのですが、すみません、もう何か月前の委員会だったか、今、定かではないのですが、この避難所運営会議の活動状況、避難訓練やっているかどうかというのは、多分A、B、C、ランク付けて、1回資料をお示しいただいたことが、何か月前、去年だったかなと思うのですが、今日、報告していただいた、この防災士研修会もそ

うですし、女性防災士の話もそうなのですが、それこそ地域からの推薦で、地域からという話なのですが、結局、避難所運営会議がある程度動いているところの地域の人たちだからこそ、こういう声も出るし、こういう人たちを集めて話できるよねという話だと思うのですが、その後、そもそも避難所運営会議自体が機能して、そこに防災リーダーとか、その女性防災士の人を増やせる環境をより大きくしていかなければいけないと思うので、結局、前のA、B、Cランクつけたところの、例えば一番何もやってないですよといったところの「C」が結構あったと思う。そういうところも働き掛けて、この1年間、どんな感じになっているかを、まず教えていただきたいです。

○災害対策課長 今現在でも、A、B、Cの整理はまだできておりませんが、今、災害対策課の方では、避難所運営支援員という形で、会計年度職員、雇用させていただいておまして、その者が、避難所支援を専門に今、取り組んでいるところでございますので、そういった活動にまだ結びついていないところも含めて、担当をして、働き掛けを今行っている状況でございます。

○杉本ゆう委員 もう5年前になりますけれども、台風19号のときに、避難所いろいろ開いて、もう大混乱だったとはいえ開けた。開くのは開けたという感じだったと思うのですが、特にこの数年、特に今年の場合は、震災のことを改めて、地震対策というのを改めて考える年になっていますね、国内外で大きい地震があったということで。そのときに、やっぱり今、あときCランクが付いていた避難所運営会議が、地震で開けるかというところが、すごい現状、不安なんです。

もちろん、今回進めてくださっている、この女性防災士のいろいろやり取りしようとか、防災

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

リーダーというシステムはすごくいいことだと思っているので、これをまず、是非進めていただきたいのですけれども、ただ、今言ったように、そもそも足立区全体にある避難所運営会議の中で、この制度を使えるところは、Aとかそういうランク付いているところでしかできない制度だと思うんですよね。もともと避難所運営がある程度できているところではないと、多分、この制度生かさないじゃないですか、地域とのつながりという意味でも。

なので、そもそも、ふだんあまり動いていないところを、まず動かす作業をしないと、この制度も使えないのではないかと思うのですけれども、そこら辺どうでしょう、今後の方針として。

- 危機管理部長 今、杉本委員の御発言については、もう私も、もっともだと思っています。やる気のあるところは月何回も打合せをして、正にがんがん進めて、みんなでかなり密なコミュニケーションしているような避難所も幾つもある反面、むしろ本部長の方から、うちはやらない、要らないよと言って、なかなか顔合わせもままならないような状況のともあって、千差万別です。

特に地元からそういった拒否態度というのですか、うちはやらなくていいんだよと言われたところについては、正直言って、執行機関の我々としても今、苦勞しているところです。

ただ、会計年度と先ほどおっしゃいましたが、区民事務所長の経験者だとか、そういった職員を今、会計年度で雇って、地元に入って、少しでも顔を合わせて、訓練に向けて何とか地道にやっているとごさいます。正直言って、今、解決策がないのですが、定期的にコンタクトを取るか、我々としてもできる限りモーションは掛けていきたいというふうに考えております。

- 杉本ゆう委員 いつもこういう言い方して申し訳

ないけれども、区を批判したりとかそういうことではないのですけれども、例えば、これで本当に震災とかが起こったときに、ふだんから★★防災リーダーとか、こういう人たちが行って、ふだんからしっかりできているところは、多分、ある程度うまく避難所運営回ると思うんですよ、ちゃんと行っているから、ふだんから。

そうではないところがあつたとして、しかも、全くややこしい話が、さっき言った町会加入率が低いというところで、多分、避難所に逃げてくる人たちのいわゆるお客さんたちは、町会入っていない人が多いわけですすよね。外から見ると、結局、避難所は足立区が運営しているのだろうと一般の人たち思ったときに、ちゃんとふだん、地域の人たちで協力受けて、できていたところの人たちから不満が出ないのだけれども、結局、ふだん活動していないところで、例えば本当の震災とか災害になったときに、そこがうまく回らなかったときに、足立区はこれまで何もやっていなかったのではないかと、執行機関の人たちが、逆に一般の区民からの批判にさらされてしまうのではないかと、そこがむしろ心配しているからこそ発言なのですけれども、だとすれば、町会の方の方だとすれば、では、その地域に関しては、例えば皆さん、うちの地域は避難所運営やりますけれども、ただ、やっているけれども、やっぱり皆さんの本音として、本部長もそうだし、副本部長もそうだけれども、みんな町会長は御高齢なので、実際問題、地震のときにできるかどうか不安だというのは、みんな心の中で思っているとすれば、多分うちはいいよと言ったところに対して、では、区としてもうちちょっと別の形で避難所を開けるように、例えば、皆さん、もう結構です、全然手伝っていただかなくて結構ですと言うと結構角が立つので、本部長として、そこに当日は、座っていただ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

いたりという言い方は変だけれども、是非お越しいただきたいけれども、実際に実務については区の方で別の方法を考えるので、実際にそういう訓練の段取りもやりますから、一緒にやってもらえませんかという感じでないと駄目だと思うんですよ。

例えばそこで、さっき出てきた話が、これも実は台風19号のときの課題で聞いたのが、消防団との関係。さっきの防災リーダーを新しくつくろうといったら、防災リーダーも、消防団と同じような報酬を払おうという話出ているみたいなのですけれども、台風19号は水害でしたけれども、ある避難所では、避難所の人たちが、もう消防団の人たちがいっぱいいたので、ちょっとこれ、何か資材を運ぶのとか手伝ってほしいと言ったら、消防団は消防団の方で決まりがあるので、それは手伝いませんと言われてしまったという話なんですよね。

だとしたら、ふだんからその運営会議の中で、消防団の人たちも、その地域の消防団、いろいろ分団ありますけれども、学校によっては、その分団の学校の学区と分団の区域違うでしょうけれども、そこはうまく担当を決めておいて、ふだんからの話合いにそっちを混ぜておく。消防団のことなので、区が直接管理できる人たちではないから、そこはもちろん消防庁の方との話もしなくてはいけないと思うのですけれども、ある程度そういう人たちを絡めておかないと、多分、そのCのランクが付いている避難所運営の地域では、もう何もできないのではないかなと思うのですけれども、どうでしょうかね。

○危機管理部長 消防団の方が避難所の手伝いというのですか、サポートというのは、私も基本は賛成ですし、その方がいいとは思っています。

ただ、消防団の運営については、台風19号の

後に、区長から東京消防庁の方に、そういったことをサポートできないのかというので申入れとかもしているのですが、今のところ、いい返事の方はいただいておりません。ですので、そこについては区長の方も、是非手伝ってほしいというか、一緒にという気持ちもありますので、そこは引き続き求めていきたいと思っています。

それと、避難所全体の運営として、震災のとき不安だとお声ありましたけれども、今、我々としては、今以上のものの対策や避難所をしっかりとできるというのは、やれるだけはやっているのですが、正直言って、新しい仕組みというのは難しいというふうに思っています。

ただ、このままですと、震災のときには開かなくなる。そんな可能性もあるのは正直なところだと思いますので、例えば今、防災士を活用して、足立リーダーをつくって、タイムラインを動かそうと、外部の防災士を入れて、その地区を動かそうという試みやっていますので、これが、外部の防災士が地元に入ってうまく回るような仕組みができれば、避難所運営とかの方も可能性の検討は広げられると思いますので、とにかく、今、遅れていると指摘がありましたが、そういった新しい試みもしながら活用を広げてやっていく。そんなことを模索しながら進めていく以外、震災のときでも足立区内が十分に回るようなのは、見当がつかない状況ですので、とにかく進めていけるように、我々としてはできる限り尽力したいというふうに思っております。

○杉本ゆう委員 今、危機管理部長おっしゃってくださったように、もう地震のときは想定外の連続だと思うので、準備してそのとおりできるとは思っていない、ふだんちゃんと訓練しているところも。なので、何度も言っていますけれども、別にあれやっていない、これやっていないと批判した

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

いわけではなくて、例えば、そのCランクのところが一番危惧されるのは、当日、誰も学校の鍵を明けに来ないという、さっき、正に部長おっしゃっていたような、万が一そういうことがあったときに、例えばなのですけれども、区の職員であるとか、特に消防団の人なんかは、正に非常勤の公務員なわけですから、ある程度強制力を持って、そこに出動させることができるわけですね。

ただ、今日考えていた防災リーダーの方は、防災士の方が、区としてどの程度までその災害のときに強制力を持って指示できるのかというのが、結構重要なポイントになってくると思うんです。

地域の足立防災リーダーの方が、例えば今言ったAとかBとかも、ふだん一応何かしら動いて、学校の鍵がどこにあってとか、うちのあたりの学校の場合は、災害時はもう入り口の窓を破っていいから、そこら辺、ドア開けなさいと決めているんですよね。そういうのが、例えばCランクのところ、それがふだん共有、地域でできてなかったときに、その地域で何人かで構わない、取りあえず学校を空けて、避難所としてドアを開ければ、そこに取りあえずばらばら人が来て、何のルールで決まっていなかったとしても、人間そこにいっぱい集まっていけば、誰かしら仕切る人が出てきて、取りあえずは避難所らしく、だんだん、最初はごたごたがあったとしても、最終的には避難所らしい体はちゃんと完成するとは思っているんですね。

ただ、そもそも地震で逃げてきて、入れないよという状況というのが、本当にそれで何もなかったら、誰かしらが多分、窓を割って入るのでしょうけれども、何人かそもそも学校を開けられる人、今、別に、さっき言った、ここは難しい話ではなくて、最低限Cのところでも、絶対にそのドア、学校を開けて、避難所自体を、本当に物理的にド

アを開ける。それだけでもできるようにするのは可能なのではないかと。そう難しいことは言わないので、その対策は、今のやっていることと並行してやる。プラス、地域の人なりその関係、PTAの人にも言うておく。消防団の人、誰かしらに言うておけば、ここの学校、こうやって開けるんだよと分かっている人が多分1人ぐらいは現れると思うので、そういう対策が要るのではないかなと思いますけれども、どうでしょうか。

○災害対策課長 今、震災のお話、杉本委員の方でお話しされていますけれども、水害時の派遣職員というのが決まっているのは御案内だと思います。先ほど危機管理部長の方からも、これから説明会をやるといって話していますが、出水期前までに、この職員と、学校と、あと地域の方々での顔合わせというのをやるように、我々の方から働き掛けをしてやっていきますので、最低限その顔合わせをしていただいて、鍵がどこに在って、どうやって入るのかというところのレベルまでは、地域の方でやっていただけるように進めていきたいというふうに考えます。

○危機管理部長 1点だけ補足です。震災のときの手順書というのは、各避難所で今年度作る予定です。その中には当然、鍵での開け方、カードのところもあれば、施錠型のところもあります。最後は窓を割って入ってもらうような、そういったことも、手順書の中でルールを各避難所でつくるようにしますし、それをちゃんと地元の人に理解できるように、そこは努めていきたいというふうに考えております。

○吉岡茂委員 かつて、我々、台湾に視察に行かせていただいた、その2日目の朝なのですが、4月の3日に大きな地震が発生しました。そのときは確かに大きく揺れていて、大変だと思っていました。それから帰ってきて、帰国後に報道で見た

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

のですけれども、発災後3時間で避難所が、官民の連携で3時間後に避難所が開設されたというふうに報道されていたのですが、今、それぞれいろいろな委員から、それぞれ様々な意見だとか質疑がありましたけれども、足立区としては、今、例えば大きな地震が発生したときに、大体何時間で、どの程度の避難所を開設するという、何かそんなような目標とか、そういったものは設定しているのでしょうか。

○石毛かずあき委員長 その前に、すみません、委員長から一つだけお願いがあります。

この報告の内容に絡むような形で、例えば避難所の全体の運営のことだったり、また、その運営に、例えば防災士を使う、活用するとか、リーダーを活用するとか、様々な、これ報告の中で絡めていただくのは結構ですので、その1点だけ、どうかよろしく願いいたします。

○吉岡茂委員 では、その他でやります。

○石毛かずあき委員長 よろしいですか。申し訳ございません。

そうしましたら、改めて、他に質疑はございますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○石毛かずあき委員長 質疑なしと認めます。

————— ◇ —————

○石毛かずあき委員長 それでは、その他に移ります。

○吉岡茂委員 ということでございますので、その辺については、どのように区としてはお考えになっているのか。発災後、何時間ぐらいで避難所が開設できる、例えば鍵を開けるとか開けないとかということも含めて、どんなことを想定しているのか、お聞かせいただきたいと思います。

○副区長 まずは、発災して3分以内は自分の身を守って、そして、火の始末とかをする。その後、周りの火災の状況とか、そういうものを確認するということとなりますので、早くても10分たつて、自分の周りが安全であれば、そこから避難所に行き、鍵を開けるというのが一番早いことになると思いますけれども、明確には地域防災計画には載っていないということです。

○吉岡茂委員 台湾の皆さんの話を聞きますと、日本の災害対策だとか、そういったことを参考に、台湾ではそういった作業を進めてきたというような話をされておられました。

なので、我々のこの日本がやろうとしていることを、実際に台湾は現実のこととして、3時間で避難所開設まで至っているという、この現実はずごく重要だと、私は印象に残っておりますので、その辺について、もう一度改めて検討してほしいというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

○危機管理部長 できるだけ早くというのは、これからの避難所運営訓練でお話をしていけないといけないかなと、今のお話を聞いて思いました。

ただ、時間といいますと、例えば地震があると、まず身を守るというお話ありましたが、そのとき、公園とか行って、いつか集合場所で集合して、まず集まって、火災から逃げるために、避難場所でまず火事をよけて、それで安全を確認されてから、避難所を開けてもらうとかという作業になりますので、時間的な設定ができるかどうかというのはちょっと考えさせてください。そんな状況を見ながら、避難所運営訓練の皆さんとは、考える機会をつくってみたいと思います。

○吉岡茂委員 是非、そういうところだと思っております。何が言いたいかという、絵に描いた餅では何の意味もありませんので、やはり日本の考え方だとか防災に関しての災害に対する意識を、台湾

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

の方が学んで、実際に3時間でそうやって避難所を開設して、決して悲観的にならない。しかも、悲観的にならない。被災した人たちが悲観的にならない環境で、避難所が動いていたというような話を聞きましたので、是非その辺は、我々も意識していきたいなと思いますし、是非区としても、その辺も少し頭の片隅に置いて、今後、検討していただきたい。要望でございます。

以上です。

○へんみ圭二委員 情報連絡で。火災件数についてありました。これ見ますと、令和4年から令和5年で74件も増えている。1.5倍以上になっています。焼損床面積でいうと、23区で群を抜いて1位になってしまっている。これは本当に大きな問題だと思うのですが、区としては、この原因はどのようにお考えでしょうか。

○防災力強化担当課長 こちらにつきましては、件数は、例年前後がありますし、焼損床面積も年によって前後があります。今回、焼損床面積の方が、群を抜いて1位とおっしゃいましたが、今年度につきましては、東京消防庁管内全体での焼損床面積が低い状況でした。

ただ、足立区につきましては例年と変わらないというような状況で、このような結果となっております。同じく令和2年に、同じように火災件数が、足立区が1位になってしまったこともありますが、こちらでも東京消防庁管内全体で、火災件数が今までで一番少なかったというような状況です。

原因につきましては、やはり住宅の多い地域です。どうしても焼損床面積は増えてしまうという形になってしまいます。

○へんみ圭二委員 火災件数見ても、港区、新宿区に次いで第3位ということで、港区、新宿に比べると、面積も、住戸数も、足立区の方が大きいですが、そのあたりは仕方のない部分もあるのか

なと思うのですが、ただ出火原因で、放火が25%もある。このあたりについて、やはり何かしら対策をしていくべきではないかなと思うのですが、何か対策を、区として考えているということはあるのですか。

○危機管理部長 方策という意味でいくと、燃えるものを家の周辺に置かないというのが一番の啓発なので、そこは火災予防運動で消防とやらないといけないのですが、我々としては、青パトを区内4台回していますので、火災発生が多いエリアなんかを注視して、そこに回すとか、そんなことも検討していきたいというふうに思います。

○へんみ圭二委員 そうした意識を高めていくということにおいても、やはり消防団を増やしていくということも、非常に重要なのかなというふうに思うのですが、消防団、私も入っていますけれども、本当に人が今、足りていなくて、若い人をどうやって増やしていくのかというところで、非常に今、我々も苦勞しているところあるのですが、是非、区としても消防団と一緒に、人員を確保するというを進めていただきたい。

特に、前も申し上げましたが、若い人たちを増やしていくためには、多分、学校とか保育園、幼稚園とか、そういったところの保護者の方に働き掛けをできるような、そういうイベントを各地域でやっていくとか、何か対策を一緒に考えていただきたいと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○危機管理部長 そんな御提案が、以前もたしかあったと思います。そんな御提案がありましたので、3月、アリオで、我々震災のイベントをやりました。そのときには、消防団お声掛けして、一緒にイベント参加してもらった。たしか救命のデモンストラクションとか体験をやっていて、そこで一緒に募集のチラシなんかを出すということで、初め

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

てやらせていただきました。そんな取組をまた検討させていただければと思います。

○へんみ圭二委員 そういった取組も進めつつ、各地域で、例えば、幼稚園で防災訓練を消防団と一緒にやるとか、そういう小さな取組というもの、進めていけるといいのかなと思いますので、そのあたりについても是非、検討いただきたいと思います。

あと最後に、先ほど杉本委員から、19号のときの消防団のことについての話がありました。私は実際、そのときに消防団員として夜中じゅう動いていたのですが、本部に詰めていなくてはならないので、途中までは各学校を回ってお手伝いをしましたが、本部に途中からずっと詰めている状況で、それぞれの学校が、本当に高齢者の方々が、本部で一生懸命やっているという中で、例えば寝たきりの方を2階に上げるということもお手伝いしましたが、途中からはもう本部にいななければいけないということがじれったくて、じれってくて、途中で、やっぱり避難所が大変な状況があるからお手伝いに行きますということで、お手伝いに行ってしまったのですが、是非、消防庁の方々に、本部に何人ぐらいは詰めていなくてはいけないのか、逆に言うと、何人ぐらい、それぞれの避難所に手伝いに行ってもいいのか、そういったことも、もしできるのであれば、話合いができないのかなと思うのですが、そこは消防庁はいい返事がないということでしたが、どのような考え方になっているのでしょうか。

○危機管理部長 今回のへんみ委員の御質問に対して、何人がという話でいくと、多分それについては、具体的な数字はもらえないのかなと思います。一応答申で出して、1回返事が来たものがあつたのですが、何か白とも黒とも言えない、グレーのような返事で、すみません、すっきりとしない回答

で、ここで私、明確にこういう返事でしたというのには申し上げられません。そちらの方の回答について、改めて頂いたものについてはお渡しまするので、そこで御確認いただければと思います。

○へんみ圭二委員 分かりました。そこも見せていただきたいなと思いますし、本当に何にも指示がないまま、本部にずっと詰めているという状況でしたから、そういったことがなくなるように、定期的に消防庁の方にも意見を上げていただいて、いざというときに消防団がしっかりと動くことができる体制を整えていただくということを、是非やっていただきたいと思うのですが、今後、消防庁と、そうした意見交換を行ったりということはあるのでしょうか。

○危機管理部長 年に2回ないし何回か、消防団運営委員会というのがあります。区の方では、区長が委員長を務めています。あと区議会議員の先生たちも何人か入って、あと東京消防庁と消防団の方と、そこでいろいろな議論をします。

たしか、私の記憶ですと、台風19号の後に、消防団の避難所の運営にもというので答申をしたというふうに記憶しています。ですので。そういった場で議論して、話をするのが一番良いかと思えますので、次回、8月ぐらいに、たしかあると聞いていますので、そこでは区長も出ますので、そこで議論されるのが、私は望ましいのではないかと考えております。

○へんみ圭二委員 分かりました。

○渡辺ひであき委員 今年に入つての地震の回数とこのを調べてみたら、去年は、1年間で震度1以上の地震が2, 139回、5弱以上の地震は8回だったそうですけれども、今年はまだ既に震度1以上の地震が、1, 100回以上起きていて、震度5弱以上の地震は、もう19回起きています。これは能登半島地震の部分が5弱以上というのは

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

多いのでしょうかけれども、ただ、感覚として、皆さん同じようにお持ちなのが、日本全体が揺れているなという感覚を持ちなのではないかというふうに思っています。

そこで、そんなことをつらつらと調べていたら、富士山の噴火のことに行きついたのですけれども、東京都は様々な概要をつくっておりますが、区の中では、富士山の噴火があった際のことについて議論されたことはあるでしょうか。

- 危機管理部長 実は、以前は地域防災計画に掲載されていて、一応、対応の基本的なことはあったのですが、令和3年の改定の際に一旦落としてしまいました。実はこの委員会でもそんな話があって、今回の改定では、もう一回復活させようと思っています。

ですので、我々としては、現在、富士山の噴火に対して東京都が地域防災計画で書き込んでいたり、対応だとか出していますので、今、そこどころの情報を集めているところでございます。

- 渡辺ひであき委員 都も当然、都や市区町村だけでその対策ができるというふうには考えていなくて、国に対して要望を従前から出しているようですけれども、令和2年の4月の中央防災会議が、シミュレーションを、東京都や各自治体に出した以外のことをやっていないということでもあります。

何が申し上げたいかという、災害対策ですから、最悪の事態を想定して、様々私たちは考えていかなければいけないという意味で申し上げているのですけれども、例えば勾配が10センチあると、もう自動車は走れないということになるそうですけれども、そのとき、避難所なのか屋内なのかよく分かりませんが、とにかく区民の皆さんが困った際に、何か、区としてできることというのを想定していく必要があるのだろうというふうに思います。

それで、避難所の場合は、その際は、物資があれば何とかなるのかなというふうに思いますけれども、一つ、その中で、いろいろな物資のものが書いてあったのですけれども、Googleについては、これはそのような場合に役立つのだろうというふうに思っていて、そんなにたくさんは要らないけれども、避難所に1個ずつぐらい、又は部、課の中で少し持っているぐらいのことはあってよいのかなというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

- 災害対策課長 先ほど、危機管理部長が御答弁申し上げましたとおり、今の基本計画の中で、噴火関係入っていないということもございますので、今後、載せていく中で、今、東京都の情報収集をしていて、あと必要なものについても、併せて情報収集させていただいて、基本は自助の中で、各御家庭、御自身でそろえていただくのが一番かなと思いますが、必要な物品については、備蓄の方も進めていきたいというふうに考えております。
- 渡辺ひであき委員 いずれにしても、そのことについて情報を集めているというふうに言っていたので、また何かの折に、委員会の中で報告をしていただければと思います。よろしくどうぞお願いします。

- 小林ともよ委員 私の方では、皆さん台湾に行っていた間に、私たち区議団、能登の方にボランティアに入っておりました。

羽咋市という、液状化が大変被害の大きい市の方でボランティアに入っていたのですけれども、その中で聞き取り調査もしてまいりまして、一つの家は、ペットが、犬が4匹いて、津波警報も聞いているのだけれども、この4匹をどうやって一緒に避難したらいいかが全く分からなくて、もうここで一緒に死ぬしかないというような覚悟を決めて、家にとどまったというお話も聞いている

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

んですね。足立区では、やっぱり水害時は一緒に居室に入れますけれども、震災時はペットとは別々ですとか、あとケージを持参してほしいですとか、いろいろな何かハードルが、まだまだ多いかなと私も思うんですね。

先ほども副区長がおっしゃっていましたように、もっとペットと一緒に避難できやすいようにしていくということですけども、1個1個の今あるハードルを下げていくということも必要だと思うんですね。なので、受入れ体制の充実をこれからも図っていくべきだと思うのですが、いかがでしょうか。

- 企画管理部長 我々も、今は昔と違って、やはりペットは家族ですので、そこに対しては、気持ちの上では十分ケアしてあげたいという気持ちは、もうそこは十分あります。

ただ、受け入れる避難所の方たちとも現場で調整をしないといけませんし、彼らの意見も聞かないで、ペットの一方的な受入れを区が決めるというのは難しいと思っていますので、そこは現場の避難所の意見も聞きますし、専門家の獣医師会の意見も聞いた中で、区として、どのラインがやるべきラインかというのは決めていきたいというふうに考えております。

- 小林ともよ委員 是非、地域の方、たくさんペットを飼ってらっしゃる方いますので、地域の方の声も、そして、もちろん避難所運営をするサイドの方の声も聞いて、調整して、これからも充実させていきたいと思います。

あと、また、この訪問した先で、障がいを持った家族がいて、液状化の被害が大きかったので、家は建ってはいけるのだけれども、傾いたりして危険だったという中でも、この羽咋市というのは、ほとんどマンションとかない、集合住宅がないような地域、私たち入ったのですけれども、なので、

近所付き合いはもちろんあるんですね。みんな御近所の方の顔を知っていたにもかかわらず、やっぱり周囲に協力お願いできなくて、どうやって避難したらいいのか、すごい困ったというお話も聞いております。

この間、私も何度も要望してまいりましたけれども、やはり周囲の人、知り合いでも頼めないという状況があるわけですから、やはりそういったところに足立区が支援して、入っていただいて、周囲の方と、そういった介護が必要な方、要支援者の方、結ぶような役割を、区が積極的に果たしていってほしいなと思うのですが、いかがでしょうか。

- 副区長 現実問題として、区の職員がそこに行って支援するというのは、かなり難しいと思います。やはり地域の中で、そういった助け合う、いわゆる自助のあとは共助ですので、共助の仕組みをつくるように区が働き掛けていくというのが、まず第1かなというふうに思っています。

- 小林ともよ委員 すみません。私、そういった意味で質問させて、申し訳ないです。計画づくりですね。是非、計画づくりというのは、一緒につくっていけるとお思いますので、その点では、福祉部、そして、あと地域のちからとかも一緒になって、横断的にやって、取り組んでいくことが必要と思いますけれども、いかがでしょうか。

- 福祉管理課長 前回、議会のところで御答弁させていただいておりますが、まず水害になります、個別避難計画の中で本人同意を得て、まずはその中から、同意を得た方に関しては、例えば避難所運営会議のところに結びつけるとか、そういう形で、まずは、働き掛けはしていきたいというふうに考えております。

- 小林ともよ委員 是非お願いいたします。

それと、4月15日、先週の月曜日なのですけ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

れども、放射能汚染から子どもの健康を守る足立北地域の会の方と、区の方で懇談させていただいて、校庭に埋設された放射能汚染土について懇談した件で、確認をさせていただきたいと思うのですが、校庭に放射能汚染土、埋設している部分に関しては、地表5センチの高さで放射線量を測っていただいているということで、皆さん安心して帰られたのですけれども、埋設場所の表示もしてほしいという要望もあったけれども、測定して危険がない数値だったので、子どもの行動を制限することにつながりかねないということで、表示はしないという結論だったのですが、教育委員会とも共有して、子どもたちに直接関わる校長先生や教員などには、埋設場所の情報を共有するということを検討していくというお答えでしたが、それは実行していただけるのでしょうか。

- 危機管理部長 もう既に校長会の方で、教育委員会の方から、そういう対応とか、埋設場所とかの説明をして、引継ぎの方を徹底するように周知をしたところでございます。
- 小林ともよ委員 ありがとうございます。

では、それで、この懇談の中で、私、気になったことがありまして、それに関してもうちょっと質問させていただきたいのですけれども、統廃合された学校の跡地利用や建て替えの際に、工事の前には、埋設された汚染土の放射線量を測定して、数値が高くなかったら掘り返して、数値が高い場合はそのまま埋設した状態にすると、以前聞いたことがあるのですけれども、その測定はシーベルトで、空間線量であって、土そのものの放射性物質を測定したわけでないということで、ちょっと驚いたのですけれども、掘り返した汚染土が、強風に舞って吸い込んだりしたら、内部被曝する恐れがあるのではないかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○資産管理課長 基本的には、今、施設営繕部に、そういったところを聞いていますけれども、地表に出るような対応はしていないというところなので、基本的には、そういうふうな外に飛散するような対応はしていないということで伺っています。

○小林ともよ委員 埋設の深度というか深さが、結構浅いところもある。30センチとか50センチとかということもあると思うのですけれども、そういったところに関しても大丈夫だということでしょうか。

○危機管理部長 すみません、事前にお話しなかったので手元、資料ないのですが、それを埋め戻すときに、たしか文部科学省だか国の基準に基づいて、深さがとか、そんなやり方という手順書を見てやったという記憶が、たしか私、去年かおとし調べたとき、そんな記憶あるんですよ。すみません。そこは定かではないので、後ほど調べて、別途、御報告させていただきます。

○小林ともよ委員 例えばというか、その基準も、掘り返すことを多分、前提とはしていないのかなとも思うので、その辺も明確にしてお答えいただければと思います。

○石毛かずあき委員長 要望でよろしいですね。

○岡安たかし委員 すみません。時間も時間なので、最後なので3点だけ。

まず1点目が、先ほど来出ているペットのことなのですが、ペットに関しては、もうコロナ前から、10年ぐらい前から、特に我が党は、議会質問や予算決算特別委員会等でも取り上げて、その度に区もブラッシュアップしているのか、ぶれながらも前進しているのか、答弁は変わってきているんですね。

最初は地域防災計画、一番最初のやつなんか、本当、数行しか入っていなかったと記憶しております。同行避難が原則です。★★で聞くと、例え

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ば犬に関しては、小型犬以上は、中型犬、大型犬は全部、校庭のうんていとか鉄棒につないで、そこで過ごしてもらおうと、こういう答弁でした。そんなことを伝えたら、全然もう飼い主の人たちが納得してなくて、また★★等で、そういう答弁があったけれども、そういうのは、皆さん納得していないですよ。また、そうすると、獣医師会や団体の皆さんとも意見を聞きながら、また、よりいい方法を考えていきますみたいな答弁があって、その後、先ほどあったNPOなんかともヒアリングしたり、あれ、でも、猫ですよ。猫ちゃん。大体猫と犬ですから、ほとんどのペットは。それはそれでいいのですけれども、それとか、獣医師会の皆さんとも相談しながら、地域防災計画にも、少しペットという点では充実してきた記載になってきましたけれども、我が党はたしか一般質問、代表質問に、他市の先進事例として、ペットの避難指針というマニュアルをつくって、こういうことをやっているところもあるから、足立区もつくって、しっかりこれを配って周知すべきだと。いや、ホームページにこういうふう書いてあるとか、地域防災計画にこうやって、それぞれの避難訓練でも周知しているとかそういう話で終わってしまっていて、知らないですよ、でも、そんなこと、皆さんに聞くと。その辺、では、今、中央本町の区役所の前に出て、犬を散歩している人に、いざというときの避難のやり方知っていますかと言ったら、同行避難というのは聞いているけれどもぐらいしか、それで終わっちゃうんですね。

あの台風19号のときは、様々、その避難所で運営方法変わったんですよ。それも運営本部長のやり方で、あるところは、もう1部屋設けて、そこに犬を全部入れたというところもあったり、拒絶したところもありました。やっぱり徹底されていないんですよ。相変わらず10年前と同じよう

な答弁です、今でも。

だから、やっぱり、もういいかげんペットに関しては、これだけ、先ほども、家族だなんて危機管理部長おっしゃるのですから、実際そうです、また飼っている方は。しかも犬と猫だけではないですよ。中には鳥、または子豚とか、もっと言えばイグアナとか、いろいろあるんですよ。どうするのかというのを、区民の一人一人が、飼っている人が、こうしなくてはいけないという災害時に、水害時、また地震のとき、避難所に行ったらこうだということをその人が分かってなければ、ただ連れてきちゃうだけです。これでは困るし、やっぱりちゃんと徹底する意味でも、これは別に答弁求めませんが、もういいかげんペットに関しては、しっかりとした方針を決めて、冊子を作ったりして周知していく。これが大事だと思うので、よろしくお願ひしたいと思います。

○危機管理部長 今回、ガイドラインをつくって、そこはお示し、紙でしたいと思っています。もうはっきり申し上げれば、避難所に連れてこられるペットと、やっぱり連れてきたらまずいペットがいますので、そこは明確に線引きしたいと思っています。

できれば、これはこの後、皆さんとの相談になるのですが、連れてこられない方にはどういう対応をすればいいのかという、アナウンスできるようなものを、紙として、我々はできればいいと思っていますので、そんな方向で、今後進めていきたいというふうには考えております。

○岡安たかし委員 大事なのは、避難所もそうなんですけれども、やっぱりペットを飼ってらっしゃる当事者の皆さん方が理解する。ここが大事だと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

昨日、おととい、昨日ですか、ニュースでも流れた、桜の木が倒れて、京都の三年坂で。今、環

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

境の方で樹木医さんがずっと調べて、全部終わったのでしょうかね、一旦は。樹木の管理体制というのをしっかり組んでいただいていますけれども、やっぱり台風とか地震で、また倒れてけがをする、あるいはお亡くなりになる、あるいは緊急避難道を塞いで、それぞれ車が、もう走らなくなるなんてことも考えられるわけですから、この辺はどうなんでしょう。環境部と連携取って、今、樹木に関しては、足立区はこういうふうにやっているから大丈夫だというのも、皆さんの中で共有した意識として持てるぐらい、ちゃんと、しっかりと連携できているのか、そこを教えてください。

○副区長 すみません。今、担当がおりませんので、はっきりお答えできませんけれども、一時期、そういった倒れた樹木があったので、一斉調査したことがありました。今、どういう状況かということをもた改めて確認して、調査をするようにしたいと思います。

○岡安たかし委員 一時期ではなくて、最近やっているんですよ、また。それ、ちゃんと把握していただきたいと思うし、はっきり言って、今そこに並んでいる管理職の皆さんが、分かっている話だと思ってしまうので、是非ここは共有していただいて、よろしくお願ひしたいと思います。

こういう危機管理、災害対策に資する、そういう課長、部長が、区民の方にこの樹木のことを聞かれたら、こうなっていますよと言えるぐらいでないといけないと思うんです、調べますではなくて。よろしくお願ひしたいと思うんですね。

もう1点は、これは最近、町会・自治会の方と集まったときに雑談の中で出てきて、足立区は、津波が起こるような地震が起きたときに、津波に関しての対策どうなっているのと。私は、津波に関しては、足立区は心配ないと思いますよと。どう心配になるのと。それ、みんな知らないよと言

うんですよ。どこに、こうこうこうだから心配ないというのまでみんな知らないけれども、何がどうして心配なのと。

普通に考えれば、足立区までに、中央区だのいろいろな区があって、東京湾から津波が来たって、いろいろなビルも建っているし、大丈夫なのではないかなと思うのですがみたいな、川を来て、いや、水門で閉めますからと。その水門の脆弱性とかそういうのも、一時期、詳しい人がいるんですよ。そういう報道をされたこともあるんだと。東京都や国の方で、それを何年か掛けて、それをまた刷新するという報道も数年前にあったのだけれども、その辺どうなっているのか、かなり津波に関しても、3.11もそうですし、今回の愛媛、高知県の宿毛のあの地震も津波、津波で、津波というのに敏感になっていて、足立区は津波に関しては、こうこうこうだから、絶対大丈夫とは言えないけれども、かなり危険度は低いですよというのでも周知してもらう必要があると思うし、区民に理解してもらう必要があると思うのですけれども、その辺は、現状と区民への周知、どうなっているか教えてください。

○危機管理部長 まず、影響なのですが、江戸時代の元禄地震の規模でいくと、1メートルぐらいの、津波の影響で水位が上がるというふうに我々考えております。

満潮の川の高さでなければ、それで津波が来るとかでなければ、基本、河川敷にはそれほど影響はないですし、区民生活には、ほぼ影響ないというふうに思っております。

ただ、区民への周知という点では十分されていませんし、我々も実際やっていないというのが正直なところでございます。

○岡安たかし委員 そうなんです。やっぱり津波一つだけでも、足立区はこうこうこうだから、大

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

分危険度は低いのだろうなというのが分かっていないと、それだけ、また一つ不安が増えるだけでも、災害に対してのストレスが増えてしまうんですね。

1個1個潰していく。先ほど言ったように、ペットを飼ってらっしゃる方は、ペットのことも考えなくてはいけませんが、ペットを飼っていない方は、そのストレスはないわけです。ところが、津波となると、あるいは、さっき言った活火山の富士山ではないですけども、浅間山もそうですけれども、そういったところの危険性まで考えてしまう人は、それ考えているだけで、もうパニックになっちゃうぐらいの人もいますわけですよ。

やっぱり一つ一つ、津波に関しては、こうこうこうで大丈夫ですよ。それから、やっぱり水害時の垂直避難に関しても、こういうふうにやっていますよ。しっかりと理解していただく。分かってもらおう。その周知は大事だと思うので、もう一度決意というか、しっかりと、こういう方法でやるというところまで、広報部の方とも相談しながら、あるいはSNSも駆使しながら、こういうふうに行きたいというところも是非、決意も教えていただければと思います。

○副区長 御意見もとてもだと思えます。ただ、津波、高潮、台風、線状降水帯、地震、たくさんございまして、どういう情報を、どのタイミングでお知らせすると区民の方に分かりやすくできるのかというのは、非常に難しい課題あります。

ただ、広報でも特集号とかもやりますので、その中で、なるべく分かりやすいような形でやっていきたいと思えます。

○吉田こうじ委員 すみません。もう時間も迫っているので、1点だけ。

先ほど杉本委員からも、避難所運営会議の件で、

なかなか機能できない地域もあるというお話がありました。台風19号のとき、実際、私の地域でも、一度も避難所訓練をやったことないようなところが開かなくてはいけないことになって、てんやわんやになって私もお手伝いをしたという経緯もございました。

水害のときは、本当に大変な、危険な地域も足立区の中にはあるので、そういうところの方々は、本当にタイムラインもつくって、しっかり機能しているところが多いのだろうとは思っていますけれども、そうではない地域でも、開かなくてはいけなくなった場合に、これは先ほどのお話ではないのですけれども、地域で、例えばごみゼロ運動をやりましょうとか、地域で歩け歩け運動をやりましょうとかという、そういう運動論の話ではなくて、やはり住民の方々の命に関わってくるような問題でもあるので、私は、なかなか避難所を開いていくのに大変だなというところに関しては、一つ一石を投じさせていただければ、民間委託とか業務委託も、私は視野に入れなくてはいけないのではないかなという時期が、来ているのではないかなというふうにも思うのですけれども、避難所運営に関して、民間に一部、例えば委託しようとか、そういうことを、業務提携というのも含めて、いろいろな団体も含めて、民間企業も含めて、民間に委託しようというような議論をなさったことがあるのかどうか、一度お聞きたいのですけれども。

○災害対策課長 避難所運営の質の向上ですとか、いかに動かしていくかというところで、民間委託というお話ですが、これ、実は私どもも一度、検討はさせていただいております。

先ほど、会計年度の避難所運営支援員を今、採用しているようなお話を申し上げましたが、それを採用するに当たって、会計年度でいくのがいい

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

のか、そういった形で民間に委託するのがいいのかという形での比較検討を内部でしたところでは

やっぱり委託、民間の方でやっていただきますと、地域の中に入って、そういったものを動かしてきた。なかなか難しいといったところで、金額的にもかなり高いものになってしまうというようなところがありましたので、今現在は、避難所運営支援員を雇用いたしまして、避難所の質が向上できるようにという形で地域に入っているといった状況です。

- 危機管理部長 1点だけ補足です。災害に、特に地震のとき発災したときに、民間企業の場合ですと、必ずしも地元に住んでいるわけではないです。区の職員が、まだ、こちらに来てから、適宜避難所に行くのが早いのか、それとも民間に任せてやるのかという検討をした場合、今、我々の判断としては、全部の避難所で全部の職員が行けるわけではないのですが、まだ区での対応という方が正しいと思っていますところでございます。ただ、機会があれば、そんな、今、吉田委員のおっしゃった御提案、企業に聞く機会があれば、伺ってみたいとは思っております。
- 吉田こうじ委員 今回、備蓄倉庫を将来的にという、そういう取組も今後、区は進められていくと思うのですが、やはり本当に、例えば震災なんかで大きな大規模災害が起こったときには、職員の皆さんの忙しさは半端でなくなるはずなんです。そういうときに、長期間にわたって避難所を、これは地域の方が、震災時は中心になっていくのだと思うのですが、それでも、やはり何か関わっていかなくてはいけないというのは絶対出てくるはずなので、私は、水害時は一時的な話ということが多いかもしれないのですが、特に震災時の避難所運営に関しては、民間委託も視野に入れて進めていくというのは、私は大

切な視点ではないかなと思いますので、今、危機管理部長おっしゃっていただきましたけれども、今後も、事ある度に、その辺は排除しないで、議論の一つとして進めていただいて、区民の皆さんの命を守るのに一番いい方法を探っていっていただければなというのを要望したいと思いますけれども。いかがでしょうか。

- 副区長 おっしゃるとおりだと思います。ただ、1点、私、今、御質問を受けてぱっと思ったのですが、鍵を開けるのに、地元の会社をお願いするというのも一つだと思ったんですよ、まずは。そうしますと、本部長とか庶務部長が来られなくても、近くの企業の方が開けてもらえるという選択肢が広がりますので、それも今、一つだと思いました。

それと、長期間にわたる場合は、国とかの支援はありますけれども、確実ではないので、確かに東京都、人口多いので、やっぱりそういった企業と委託を結ぶというの、ほかはやっているかどうか分かりませんが、それも検討したいと思います。

- 高橋まゆみ委員 時間になっておりますので、簡潔にお聞きしたいと思います。

私も台湾の視察の方、女性1人だったのですけれども行かせていただいて、担当の皆さんに優しくしていただきありがとうございます。

それで、花蓮の県庁の方も初日から視察入られて、避難所の開設というの、きちんとパーテーションを組まれている映像が流れておりました。予算でも言いましたけれども、スフィア基準をかなり確実に守ってらっしゃるという印象がありましたが、そのときに、台湾の県長さんの話を聞いていたときに、日本を手本にしてとおっしゃっていたのです。なので、この言葉を聞いたときに、うれしい反面という形に思ってしまったのですけ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

れども、この足立区で、このパーテーションだったり、用意をされるおつもりはどうでしょうか。

○災害対策課長 現状、パーテーションは若干しかありません。いわゆる、熱があつたりとか、そういった方々をこうやって区画するためのものはあるのですが、一般に避難してこられた方のためのパーテーションというのは、今、ない状況です。

避難が長期化してくると、そういったもの、プライバシーを守るものというのは、必ず必要になってくるというふうに思いますので、今後、そういった避難所の中長期的な生活というのを見据えた上で、必要な物品はどういったものかという中で、恐らく、そういったパーテーションも出てくると思いますので、今後どういった形で備蓄するのが可能なかどうかということも含めて、検討させていただきたいと思います。

○高橋まゆみ委員 ありがとうございます。是非、進めていただきたいと思います。

あと、防災士の研修の中で、その話も出た中で、段ボールでベッドを作ったりとかいうのが、日本では、やりみたいになっているのですけれども、そもそもですけれども、この段ボールを使ったものというのは、簡易的に行ったことが発祥だったのですけれども、今、段ボールが先行してというお話になっていました。是非このパーテーションの方が、プライバシーも守られるという形になりますので、お願いいたします。

あと、その中で備蓄の話になりまして、備蓄倉庫が減らされていく。だけれども、備蓄倉庫が減らされるけれども、備蓄を増やしていくという話の中で、この中で、企業さんの見本といいますか、話が出て、まず各家庭に配ってしまうというお話があつたんです。前にもこの災害対策でも出たかと思うのですけれども、取りあえず備蓄倉庫がないのであれば、各家庭に配るといふ考えはどうで

しょうか。カタログリストですね。

○災害対策課長 今時点で私どもは、何かしら区の方で、何か買って配るといふ考え方は持っておりませんで、基本的には自助の重要性というところを訴えまして、各人、3日ですとか1週間ですとか、備蓄の方はしっかりしていただけるようにという働き掛けの方を、まずはしっかりやっていきたいと思っています。

○高橋まゆみ委員 あと、その備蓄の中に、水というのが大きく場所を取るかと思うのですけれども、この足立区で、浄水器みたいなものは備えられていますか。

○災害対策課長 各避難所で、いわゆる、ろ水器というのですけれども、そういったものは備蓄してございます。

○高橋まゆみ委員 すごく安心しました。大体10万円程度で、手動でできるというものがあるので、是非その数を増やしていけば、雨水でも飲めるような形になるというので、是非そろえていただきたいと思います。

あと最後に、3月の、先ほど話が出ました、アリオで防災のイベントがあつたんですよ。私も行かせていただいて、ちょっと様子を見てきました。この消防団を増やすというところに力入れてらっしゃるのかなという形で、すごく子どもたちにも声掛けされていて、すごくよかったなと思います。

消防団を増やしたいというのも、私も消防団なので、すごく思うのですけれども、前回も言いました会費だとか、操法訓練みたいなものが、すごく消防団の重荷になっていて、今回、私も出る予定なのですが、週に3回、更には日曜日まで、夜の7時から9時までやらなくてはいけないというのは、本当に、家庭を持っているとかなりきついですね。こういったことを進めると、消防団になってくださいという声掛けができ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

なくなるということもありますので、是非この会費というの御相談させていただきたいなと思います。

ます。

午後零時08分閉会

あと、同じく町会のことも、先ほどちらっと出たのですけれども、町会員を増やすというの、この会費がかなり大きいんですね。今回、年度替わりで、私も1年間で6,000円という会費を取られるのですけれども、(「高い」と呼ぶ者あり)高いのですか。そうなのですか。6,000円というのが、やっぱり年金受給者だったり、アルバイトしかやっていない若い人たちというのは、どうしても町会に入れられないということになってしまいますと、地域防災にかなり支障を来してしまいますので、同じく検討していただけたらと思います。これは要望で大丈夫です。ありがとうございます。

○石毛かずあき委員長 要望ですね。よろしいですね。

他に質疑はございますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○石毛かずあき委員長 質疑なしと認めます。

それでは、委員長より委員の皆様に申し上げます。

本特別委員会は、令和5年第2回の臨時会において設置されてから、おおむね1年間、災害対策や、また、オウム真理教(アレフ)に対する調査研究を重ねてまいりました。

本日の委員会で一区切りとして、議長宛てに本特別委員会の調査報告書を提出いたしたいと思います。

なお、調査報告書の内容につきましては、正副委員長に御一任いただきたいと思いますので、御了承いただきます。よろしく願いいたします。

それでは、特別委員会の場合は速やかに終わることですので、これで終了させていただきます。